

# 古典

第18回

漢詩

不出門 デ  
ヨ

菅原道真 すがはらのみちざね



講師  
相原健右

## 学習のポイント

- 「不出門」とはどのような状況か
- 三・四句、五・六句はどのような状況か
- 「何為れぞ寸歩も門を出でて行かんや」とはどういう意味か

## 理解を深めるために

今回は、菅原道真の漢詩「不出門」を学びます。

漢詩のうち、日本人が作ったものを特に日本漢詩と呼びます。中国の近体詩の形式にのつとりながら作られた日本漢詩は、日本人の美感や情感が表れており、唐詩とはまた違った味わいを持つ作品が多く残されています。時代によるはやりすたりはありますが、奈良時代以降、今日に至るまで多くの優れた日本漢詩が作られました。

## 日本人と漢詩

日本は古来より、中国から「文化」というべきさまざまなものを持入してきました。特に、奈良時代から平安時代にかけては、遣隋使や遣唐使によつて、積極的にこの「中国の文化」を輸入し、日本という国を形づくるのに活用します。

日本が輸入した「中国の文化」は、一般的に「思想」と「教養」の二つに分けて説明されます。

思想としては、儒家思想に代表される諸子百家や仏教に関するものなどがこれに当たります。特に儒家思想については、国の統治者となるべき立派な人物（君子）の振る舞い方に関する道徳的な価値観にはじまり、儀式・式典のことや官職制度、さらには法律など、政治や統治のための具体例として受け入れられました。教養としては、『文選』や『白氏文集』など、詩や文学に関する文献が当たります。当時の知識人たちは、死生觀や自然觀が情感豊かに表現された漢詩文を読み、中國の文人たちの感性に触れ、文化藝術への理解を示す態度を身につけていました。

これら「中国の文化」は、漢文で書かれた文献（漢籍）によって、日本にもたらされました。隣国から来る最先端の思想や技術を理解するためには、漢文が読めることはもちろん、内容を正確に理解するための知識や教養をもつことは必須要件でした。当時の知識人は、漢文や漢詩によく通じていた、ということです。平安時代の中頃まで、中国伝來の漢文や漢詩は日本語による文や和歌などよりも格式の高いものとされました。平安時代の知識人のなかでも、特に学識が高かつたり、文学的な資質が高かつたりした人は、漢文や漢詩を作りました。中国の文

# 古典

第18回

このページの文書・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。

## 古典

第18回

このページの文書・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。

化をただ受け入れるのではなく、その文化を吸収し、自分たちなりにアレンジして表現したことです。漢字で書かれた文章としては『日本書紀』や『古事記』が挙げられます。漢詩も古くから作られ、奈良時代の中頃に成立した漢詩集『懷風藻』を始めとして。平安時代には、勅撰（天皇の命令によつて編纂された）の漢詩集も作られます。平安時代に優れた漢詩を作つた人物としては、今回学ぶ「不出門」の作者、菅原道真のほか、弘法大師空海などが挙げられます。

### 菅原道真の人物像

ところで、皆さんには「菅原道真」と聞いて何を連想するでしょうか。

平安時代をモチーフにした映画や小説、漫画等では、天変地異を起こして京都（平安京）を恐怖の渦に巻き込む恐ろしい怨霊として多く登場します。

そうかと思えば、現在は学問の神様として、全国にある天満宮や天神社に祀られています。北野天満宮や太宰府天満宮など、菅原道真を祀る神社は全国にあり、受験シーズンになると合格祈願の参拝者がたくさん訪れます。皆さんの中にも、参拝したり絵馬を奉納したりした経験のある人がいるのではないでしょうか。

この「怨霊」と「神」という両極端な評価は、道真の晩年と死後のエピソードに関係します。

右大臣に上り詰めるなど、政治的な権力を持つた道真でしたが、晩年に失脚。京都から遠く離れた太宰府（現在の福岡県太宰府市）に追放され、この地で非業の死を遂げます。その後、道真を追放した政敵たちが相次いで病死し、また内裏にある清涼殿に落雷が発生して多くの被害が出ます。これを、恨みを持って死んだ道真の祟りだと考えた朝廷は、京都に北野天満宮を、太宰府に太宰府天満宮をそれぞれ建立して道真を祀り、その祟りを鎮めようとしました。その後、自然災害が起ころるたびに「菅公の祟り」は思い起こされ、全国に天満宮や天神社が広がっていきました。これが、「怨霊」道真の由来です。

時代が下るに従つて「祟り」の記憶は風化していきます。江戸時代に入ると、生前の平安京随一と言われた道真の学識の高さから、学問の神として信仰されるようになります。これが今まで続く天神信仰につながります。

「不出門」は、道真の失脚後、追放された先である太宰府で詠まれたものです。この詩には、謹慎中の道真の心情が表現されています。一般的にとらえられる「怨霊となるほど恨みをもつ道真」というイメージと、この詩から読み取れる道真の心情とを比較して、本当の道真の姿に思いを巡らせてほしいと思います。

## 日本の詩

講師・相原健右

### 不出門

一タビ	都	中	不
従リ	府	懷ハ	レ出
三	楼ハ	好シ	レ門
雖	纏	逐ハ	
三	落セラレテ		
身ノ	在リテ		
無シト	看ミ		
孤雲ノ	瓦		
撫けん	柴		
繫一	色		
去ルコト	荊		

万死	觀音寺	外物	何
競	ハ	ハ	なんすレゾ
タリ	只	相逢	寸
きよく	たダ	アハン	歩モ
セキノ	聴ク	満月	出レ
セキノ	ノ	ノ	門
声一	鐘	迎	行

菅原道真

書き下し文

門を出でず  
ひとたび謫落せられて柴荊に在りてより  
都府樓は纏かに瓦の色を看  
万死競競たり跔踏の情  
觀音寺は只だ鐘の声をのみ聴く  
中懷は好しそばん孤雲の去るを  
外物は相逢はん満月の迎ふるに  
この地身の撫繫せらること無しと雖も  
何為れぞ寸歩も門を出でて行かんや

古典

第18回

このページの文書・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。